

18日に静岡市葵区の茶市場で開かれた入札方式の販売会。来場者はマスクやビニール手袋の着用が義務づけられた。通常は使い回す味見用のスプーンを撤去する替わりに、使い捨ての紙コップを用意。専用の茶碗も使用するたぐびに熱湯消毒する徹底ぶり。

茶葉の感触や香り、湯に溶け出したうま味の強さなど、買手は全感覚を研ぎ澄ませて品質を吟味

新型コロナウイルスの感染拡大が、シーズを間近に控えた本県の新茶取引の風景を変えた。お茶の取引は、見本のお茶を業者が手に取ったり味を確かめたりして、売り手と一対一で価格交渉する相対取引が基本。『濃厚接触』のリスクが高いだけに一万人が、感染者が確認されたら取引を中止せざるを得なくなってしまう（静岡茶市場）と業者たちは神経をどがらせている。

新茶取引も様変わり？

① 新茶取引の風景を変えそうな原因となったのは
 为什么呢。

② 本来お茶の取引は、どのようにして行われるのが基本でしょうか。50字以内で書き抜きましょう。

[illegible]

③ 3月18日に静岡市葵区の茶市場で開かれた入札方式の販売会はどのように行われたのか、3つにまとめましょう。

氏コップで味見、1トル離れ交渉…

するだけに、仕入れ担当者からは「手袋をしている」と茶葉の水分量などがわからないう「紙コップのにおい」が気になって茶の香りがぼける」といった声が目立った。

販売会に先立ち、茶市場は出入り業者に「二度口」に含んだ茶は、拝見場内ではききさない」「展示されている見本茶に顔を近づけない」となど14項目のルールを通達。買い手をつくる県茶商工業協同組合も「（取引の）交渉などの会話は1メートル以上離れる」「見本（茶）の使い回しはしない」などの対策をまとめた。

ただ、昔ながらのそばんを手にとり、時に丁々禁止の値段交渉を繰り広げる商習慣が根付いているだけに、どこまで効果を発揮するかは未知数だ。

毎年約9000人が集まり、新茶シーズンの幕開けを全国に告げる茶市場の初取引のセレモニーも今

シーズン間近 対応模索

茶市場の内田行俊社長は「新茶シーズンを迎えるために、課題を精査し、きちんとしたルールで対策を徹底したい」と話す。



マスクや手袋を着用して、感染拡大防止のために対策をとる静岡茶市場職員と買い手の茶商ら＝18日、静岡市葵区の静岡茶市場

2020年3月21日朝刊

④ 写真の3人はどんなことを考えているでしょうか。
吹き出しの中に書きましょう。

名前 組 年